

青く晴れ渡った空を疾走するバンド

レポート #1
駒木祭
2015.11.2~3

駒木祭は、江戸川大学と江戸川大学総合福祉専門学校が共催する学園祭。



平均年齢 20 歳。鴻池遼が沸き上がる感情のままに歌いあげてゆく。着飾りを捨て「届けたい想い」を際立たせた楽曲には、触れた人の感情を揺さぶる情熱があふれている。



ARCHAIC RAG STORE
アルカイク ラグストア

駒木祭に突如、出演したバンドがいる。ARCHAIC RAG STORE だ。たった 20 分ほどのライブだったが、まるで夏フェス

のように青空のもとで疾走感のあるステージを披露した。撮影: 勝俣遥子 取材: 勝俣遥子・遠藤只光 文: 勝俣遥子



横山航大 [Ba]



鴻池遼 [Vo&G]



雅景 [G]



奥村真也 [Dr&Cho]

「ARCHAIC RAG STORE」を目前にしたかのようだが、申します！高卒です！」という、明るく挨拶から始まり、「今日、改めて分かったことは、俺ら、まだまだ半人前のバンドなんだなって、つくづく思いました。でも、ここで歌わせていただいで、耳を傾けてくれる人に、何か残したいなって思っ。まあ、何が残せるか、正直分からないけど、俺たちはすべてをありのまま歌います。押し付けることもしないし、吐き出すようなこともしないし。そのまんま、このステージにおいていきます。今日一番聞いてほしい曲「夜を翔ける鳥」です」と熱いMCにつづいてドラムが合図を打ち、ギターの音が走る。

「その先に何が見えるだろう／明日はすべてどこまで来ている」「立ち止まってしまった夜には、届かない空に手を伸ばしてみるけど、震えるこの指先が何を指しているのかすらわからないまま」と初めは、目視できない未来への不安を歌っている。しかし、サビの歌詞では「この空の彼方へ／どこまでも羽ばたいていく／命の灯が消えるまで」「振り返らないで／目の前に広がる景色へ…/物語は始まったばかり／今、始まる」となる。まるで大きく開けた青空

を目前にしたかのようだが、さすがが伝わってきた。今をバンドとして生きるその生きざまが歌われた。

さわやかで力強いロックサウンド、メッセーシ性のある歌詞。若々しいこれらの曲は、ネットでは演奏技術の高さを評価されているように、曲の演奏テクニクも高い。

メンバーは奥村真也さん [Dr&Cho]、雅景さん [G]、鴻池遼さん [Vo&G]、横山航大さん [Ba] の 4 人。体験入部で見た先輩の姿に心を動かされた鴻池さん。その後、横山さんと出会ったという奥村さんでスリーピースバンドを組んだ。その後、対バン相手として出会った雅景さんをメンバーに加え、今の形になったのだという。

ステージ前のファンにバンドの魅力を聞くと「メンバーそれぞれのもつかっこよさと、演奏技術の高さ」だという。

しかし、かれらは「ぶっちゃけどうでもいんです。一番重要なところは、バンドの生き様です」と笑顔をみせる。

夢は？と聞くと、「いつかは横浜アリーナでライブしたい」といって、もう一度熱い。